慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　１回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

平成28年 新年祝賀式開催

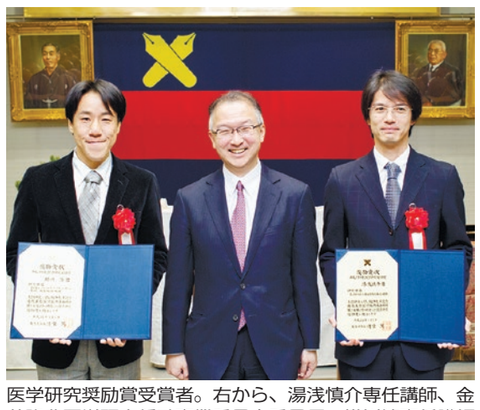
慶應医学100年を目前にした大切な1年の幕開けを祝う

医学部では、毎年新春を迎えて、教職員および三四会員による新年祝賀式を開催しています。今年も、1月5日（火）に慶應義塾大学病院2号館11階の大会議室で開催されました。

慶應義塾大学と親交の深い学校法人北里研究所から、藤井清孝理事長のほか役員の方々、また北里家を代表して北島一郎氏を来賓として迎え、冒頭に岡野栄之医学部長が年頭の詞を述べ、清家篤塾長、藤井清孝北里研究所理事長、武田純三三四会長、堀進悟医学部教授（教職員代表）からそれぞれ賀詞が述べられました。

また、竹内勤病院長の乾杯の発声で始まった懇親会では、三四会役員の方々、関連病院会、医学部、看護医療学部等の先生方などが参加し、それぞれ新年の挨拶を交わし、親睦を一層深めました。

新年祝賀式と併せて「坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金」に基づく医学研究奨励賞授賞式が行われ、湯浅慎介専任講師（78回）と掛川渉専任講師（76相当）の2名が受賞されました。


医学研究奨励賞受賞者。右から、湯浅慎介専任講師、金井隆典医学研究奨励事業委員会委員長、掛川渉専任講師

清家篤塾長によるご挨拶

懇親会の様子

医学部・医学研究科ウェブサイトのリニューアル

医学部・医学研究科ウェブサイトを6年ぶりにフルリニューアルしました。従来のウェブサイトは、主に内部向けで、外部の方に「慶應の医学部らしさ」を十分に伝えることができていませんでした。2017年の医学部創立100年を前に、受験生や研究関係者など外部の方に力強く継続的に慶應医学をアピールすべく、2015年夏からウェブサイトのリニューアルに向けて動き出しました。制作は、岡野栄之医学部長、天谷雅行医学部長補佐のもと、20名からなるウェブサイト検討会議（中川種昭委員長）が企画立案を行い、各教室を代表する73名からなる医学部ウェブサイト委員会が制作支援を行う体制で、医学部教職員が一丸となって取り組みました。

ウェブデザインとしては、他の医学部が数年は追いつかないような、最新のテクノロジーを使った、斬新なデザインを採用しました。

重要なターゲットを医学部受験生と海外からの留学生と考え、ターゲットが求める情報にたどり着きやすい導線作りをはじめ、他大学にはない独自の魅力を整理し、シンプルに伝えることに力を入れました。そのために、「Our 5 Core Values ～5つの価値～」というメインコンテンツをトップ画面に設置し、この1ページで独自の魅力・特徴をシンプルに伝え、興味をもった事柄については詳細ページにすぐアクセスできるようにしました。また、「教室・講座一覧」「教員・研究者一覧」など、アクセスが多くターゲットが知りたい情報を整理し、顔写真を入れることで、より親近感を醸成するように工夫しました。

今回は、慶應義塾大学医学部の魅力を伝えるために、多くの教員、学生、研究生、留学生、卒業生に聞き取り調査を行いました。そこから見えてきた重要な点は、やはり、人の魅力を伝えるということでした。そこで【Features】という、学生や卒業生、研究者、学校行事、研究などの最新情報を発信していくインタビューコンテンツを設けました。さらに学生生活というカテゴリーでは、医学部生や留学生の1日の生活や、入学前後で変化した慶應へのイメージをリアルに取り上げるなど、多様な人物を通じて医学部・医学研究科を知ってもらう努力をしています。

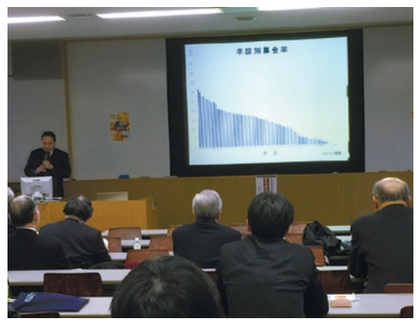
現在は英語版サイトの公開に向け準備を進めています。全世界の優秀な学生、研究者に慶應の医学部・医学研究科を知っていただき、多くの優秀な留学生を集め、共同研究が活発化するように、今後も魅力あるコンテンツを提供していきたいと思っています。新しくなった医学部・医学研究科のウェブサイトをご活用いただければ幸いです。

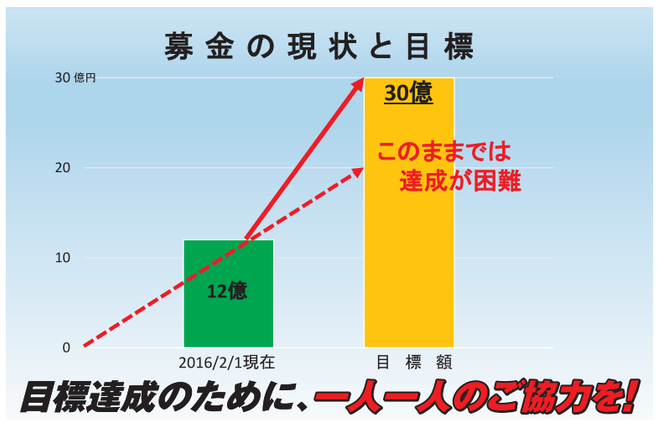
URLは、http://www.med.keio.ac.jp/です。

（文責：中川種昭、門川俊明、谷口真子）

熱気の新病院棟建設 学年募金委員会 開催

新病院棟建設も着々と進行し、既に7号棟は完全に姿を消し、中央棟のとり壊しが始まっている。その建設のための募金活動も2016年1月末の段階で12億に到達したが、なお募金協力の進捗は順風とは言えず、このままでは目標到達が懸念される状況である。





その中で各学年募金委員の集会が2月6日午後4時から新教育研究棟で開催され、対策を議論した。武田純三三四会長、戸山芳昭常任理事からのお願いとともに、現状の詳細な状況報告と活発な募金活動のための白熱した意見交換がなされた。個人募金として重い寄付であることは事実だが、何よりも社中一丸となって、福澤先生および門下生が守り育ててきた慶應義塾へ貢献することが我々の使命であることの強い意識が共有された。

熱い議論の中で、これから育つ後輩のために、そして新たな医療を求める患者のためにも募金委員からお願いを積極的に発信することが決議された。

（末岡　浩　59回）

短期集中連載 第2回

慶應医学部100周年に向けた4つのタスクフォースの取り組み

CPC・再生医療推進タスクフォース

趣旨：CPC運営委員会との連携のもとでの総合医科学研究センター内の現有CPCの厚生労働省への届け出と、新法に準拠した再生医療実施のための体制整備と情報収集を行う。

輸血・細胞療法センター 教授　半田　誠（55回）

組織の再生に用いるiPS細胞などの幹細胞などを使用した医師の自主臨床研究（translational research：TR）や患者自身の免疫細胞を用いたがん治療などの自由診療を規制する目的の、再生医療等の安全性の確保等に関する法律（再生医療新法：平成25年11月27日公布）が平成26年11月25日に施行された。

新法では、再生医療等技術をそのリスクに応じて第1種（高リスク：iPS細胞等）、2種（中リスク：体性幹細胞等）及び3種（低リスク：体細胞を加工等）に分類し、医療機関での当該医療技術の提供計画の妥当性を厚生労働大臣の認定（専門性や第三者性等を含めた審査能力について）を受けた審査委員会（認定再生医療等委員会：第1種・2種はより高度な審査能力が要求された特定認定再生医療等委員会）で審議した上に、国に報告すること（第1種は厚生科学審議会の審査を経由）が義務化された。そして、治療に用いる細胞（特定細胞加工物）の製造は、厚生労働大臣の認可を得た細胞培養加工施設（cell processing center：CPC）で行うこととされた（図1）。

周知のごとくiPS細胞技術を用いた再生医療の早期実用化は現政権の成長戦略の目玉であり、当学はその拠点の一つ（日本医療研究開発機構、再生医療実現拠点ネットワークプログラム拠点A：iPS細胞由来神経前駆細胞を用いた脊髄損傷・脳梗塞の再生医療、研究代表者：岡野栄之、他）を担い、新法に対応した体制整備を進めてきた。その結果、特定認定再生医療等委員会の設置が認可され（認定期間：平成27年8月21日より3年間）、総合医科学研究棟9階のCPCが特定細胞加工物製造施設（認定期間：平成27年11月19日より5年間）に認証され、当学における再生医療等技術TRの必要最低限の遵法体制は構築された。

今後は、①当学における再生医療等技術の窓口となる組織（例：大阪大学未来医療センター；東京医科歯科大学再生医療研究センター）の構築とその位置づけ、②総合医科学研究棟8階に設置されている3箇所のiPS細胞を利用した再生医療研究ユニット（生理学・整形外科：神経細胞、循環器内科：心筋、眼科：角膜）に付属したCPCの厚生労働省への認可申請、③新病院棟（1号館）開設に伴う現有CPC（総合医科学研究センター：4ユニット、病院輸血細胞・療法センター：1ユニット）及び1号館5階手術室及び輸血細胞・療法センターに隣接したCPC用スペースの利用案（図2）の最終化、などを検討して行きたい。

図1　再生医療新法に基づく再生医療等技術の提供手続き

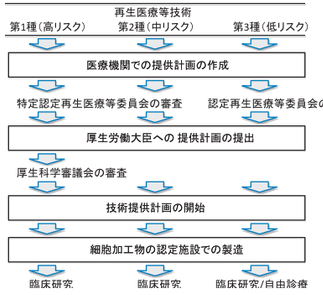
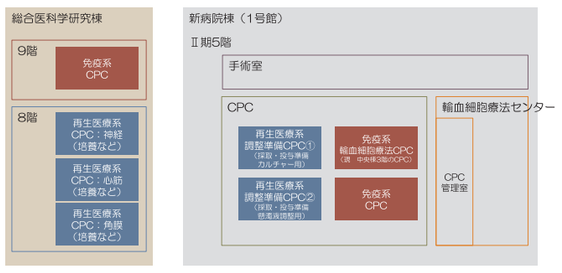


図2　新病院棟完成後のCPCの利用案



新病院棟開設準備室、2014年11月27日作成

北島政樹名誉教授 万国外科学会（ISS／SIC）コート・オブ・オナー就任

北島政樹名誉教授（外45回）は、去る2015年8月の万国外科学会（International Society of Surgery／Société Internationale de Chirurgie：ISS／SIC）の学術集会である世界外科学会（WCS：World Congress of Surgery）においてコート・オブ・オナーに就任されました。

ISS／SICは、1902年創設の世界最古の国際的な外科系学会であります。学術集会は外科医として初めてノーベル賞を受賞したTheodore Kocherを会長としてベルギーで第1回が開催されて以来、昨年のバンコクで計46回を数えます。会員には世界の著明な外科医が名を連ね、現在の会員数は全世界で2千名を超えます。うち日本は米国に次ぎ多くの会員を有する状況です。

北島政樹名誉教授は2001年ブリュッセル大会で栄誉あるグレイ・ターナー記念講演の演者に選出されて以来、ISS／SICにおいて中核的な役割を果たし、本会において数々の要職を担ってきました。会長を務めた2007年のモントリオール大会の成功、学会の財政基盤の健全化など、その功績は枚挙に遑がなく、2013年には名誉会員に推戴されています。また同年、構成学会の一つである国際消化器外科学会では北島政樹名誉教授の名前を冠したKitajima Prizeが創設され、昨年のバンコク大会において2回目の表彰が行われています。今回、学会定款の改定で新たに創設されたコート・オブ・オナー（Court of Honor）という役職の初代メンバーに就任されました。本職はISS／SICを構成する専門学会、関係国、関係者等の利害が対立した場合に、高所大所から裁定を行い円滑に学会の運営を推し進める重責であり、司法における最高裁判所の判事に相当する立場といえます。定員3名で、数少ない名誉会員の中から選任されます。長年New England Journal of MedicineのEditorial Board Memberを務めるなど、外科学における国際的な功績と、幅広い人脈と暖かいお人柄から抜擢されたことと思われます。

兼ねてから北島政樹名誉教授は外科医に求められる資質として、Art、Science、Humanityの3つの重要性を説いてきました。万国外科学会のコート・オブ・オナーは、まさにこのすべての力量を発揮してはじめて成し得るものといえます。国際医療福祉大学の学長として、新しい医学部の創設に向け多忙を極める中、このような大役をお引き受けになったのも、医学界におけるわが国および慶應義塾の国際的な立場をさらに高めるためと推察しております。北島政樹名誉教授の一層のご健勝を祈りつつ、そのお気持ちに応えるべく後輩一同、気を引き締めて診療・教育・研究に向き合っていかなければならないという思いを新たにしました。

（和田則仁　外71回）

三四会奨励賞の推薦について

Young Investigator Award、Keio University School of Medicine Alumni Association（Sanshikai）

目　　的　若手の三四会会員の研究を奨励し、実学としての慶應医学の発展を図る。

対　　象　次の各分野ですぐれた業績をあげた三四会正会員（本塾関連病院のみではなく、研究施設他大学、地域等で業績を上げている三四会員も含む）

1．対象となる分野
　イ、臨床医学　　ロ、基礎医学
2．満40歳以下

推薦方法

1．推薦者は、三四会役員、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授、慶應義塾大学関連病院会会員および他大学教授（三四会員）とします。
2．推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会奨励賞推薦状）により候補者を推薦して下さい。
3．推薦締切りは平成28年４月22日（金）必着、三四会事務局宛とします。
4．提出部数は、推薦状、被推薦者略歴、論文別刷（学術集会発表の場合はそれを証明するコピーと800字程度の抄録）、オリジナル１部とコピー10セットが必要です。
5．対象となる研究が共著論文の場合は共著者の承諾書（オリジナル１部とコピー10部）が必要となります。

※推薦状、略歴、論文、共著者の承諾書を順に組んで１部とし、コピーも同じ体裁に整えてください。
※推薦状のダウンロード、必要書類等は下記URLをご覧下さい。
URL：http://www.sanshikai.jp/award/shourei/index.html

選考ならびに受賞

三四会奨励賞選考委員会による厳正な選考の結果，約８名程度の受賞者を決定します。受賞者は平成28年６月11日（土）に予定されている三四会定例評議員会で表彰され，賞状および副賞が授与されます。

三四会社会功労賞の推薦について

目　　的　地域社会、社会貢献を通じて顕著な功績により三四会の名誉を高めた三四会員を表彰し実学としての慶應医学の発展を図る。

対　　象　1、表彰目的に沿った優れた業績をあげた三四会正会員（本塾関連病院のみではなく、研究施設、他大学、地域で業績をあげている三四会員も含む）
2、年齢は問わない。

推薦方法

1、推薦者は、三四会役員、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授、慶應義塾大学関連病院会会員および他大学教授（三四会員）とします。
2、推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会社会功労賞推薦状）により候補者を推薦してください。
3、締め切りは、平成28年４月22日（金）必着、三四会事務局宛とします。
4、提出部数は、推薦状、被推薦者略歴、表彰目的に沿った業績目録、客観的に評価しうる資料等、オリジナル１部とコピー10セットが必要です。

※推薦書のダウンロード、必要書類等は下記URLをご覧下さい。
URL: http://www.sanshikai.jp/award/kourousyo/index.html

選考ならびに受賞

三四会長を委員長とする三四会社会功労賞選考委員会による厳正な選考の結果、原則１名の受賞者を決定します。受賞者は平成28年６月11日（土）に予定されている三四会定例評議員会で表彰され、賞状および副賞が授与されます。

慶應医学部新聞編集室のメールアドレスが新しくなりました。

〈新しいアドレス〉

sansikai-editor@mediproduce.com

アドレス帳の変更などをお願いします。

医学部新聞への投稿、ご意見、ご感想、近況などは上記アドレスまでお送りください。

鑑賞知来

現代の医療においては、患者さんにも自分の病気のことを十分に理解していただくことが重要である。しかし、患者さんが、自分の病気のことを知ろうとしても、信頼に足る情報源は限られている。私たちは、2009年にKOMPASというサイトを立ち上げ、病気、検査、くすり、栄養に関する患者さん向け情報を提供してきた。

KOMPASという名称には、情報の荒波の中で、患者さんの指針になるようなサイトにしたいという思いが込められている。最大の特徴は、慶應義塾大学病院の各診療科の医師などが書きおろしたオリジナルの記事であるということである。また、患者さんの理解を助けるよう、オリジナルイラストを作ったり、信濃町メディアセンターを中心にした編集委員が編集し、わかりやすいコンテンツを作成している。現在の記事数は約700となり、新聞など多くのメディアでも取り上げていただき、Googleに病名を入れて検索すれば、上位にKOMPASのサイトの解説が出てくるほど、有名なサイトになりつつある。

「最新の医療紹介」では、慶應義塾大学病院の新しい医療の取り組みを、担当する医療スタッフとともに紹介することで、慶應義塾大学病院受診の窓口機能を担っている。また、「慶應発サイエンス」では、慶應義塾の若手研究者の研究成果を一般の方にわかりやすく紹介している。

KOMPASは慶應義塾大学の大きな社会貢献の一つであり、慶應義塾大学病院の価値を高める重要なサイトになっていると考える。是非、三四会の皆様におかれましても、KOMPASをご利用いただき、患者様にもご案内いただければ幸いです。URLは［http://kompas.hosp.keio.ac.jp］です。

（医学教育統轄センター教授、信濃町メディアセンター所長　門川俊明70回）